

ザ・シンフォニエッタ

創立20周年記念

第20回演奏会

ウェーバー／歌劇『オベロン』序曲
モーツァルト／2台のピアノのための協奏曲
変ホ長調 K. 365
メンデルスゾーン／交響曲第5番ニ短調 op. 107
『宗教改革』

指揮 山下 一史
ピアノ 若林 顕
合志 知子

2006年3月5日(日)
熊本県立劇場コンサートホール

14:00開場 14:30開演

入場料 一般 1,500円 学生 1,000円
チケット販売 熊本県立劇場 交通センタープレイガイド
大谷楽器 西野楽器店

お問い合わせ 096-326-9475(清永)
公式ホームページ <http://www5d.biglobe.ne.jp/~sinfonie/>

主催 ザ・シンフォニエッタ
助成 公益信託くまもと21ファンド (財)熊本県立劇場
後援 熊本県 熊本県教育委員会 熊本市 熊本市教育委員会
熊本日日新聞社 NHK熊本放送局 RKK TKU KKT
KAB FMK 熊本シティエフエム

◆指揮者・演奏者紹介◆

山下 一史 (指揮)

Kazufumi Yamashita, Conductor

桐朋学園大学卒業後、ベルリン芸術大学に留学、カラヤンのアシスタントをつとめた。1986年ニコライ・マルコ国際指揮者コンクール優勝。ヘルシンボリ響(スウェーデン)首席客演指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢プリンシパル・ゲスト・コンダクター、同パーマネント・ゲスト・コンダクター、九響常任指揮者を歴任、現在オペラハウス管弦楽団常任指揮者をつとめている。近年大阪音楽大学が、カレッジ・オペラハウスにおけるオペラ公演が大きな話題を呼んでいる。

若林 顕 (ピアノ)

Akira Wakabayashi, Piano

東京芸術大学を経て、ザルツブルク・モーツァルテウムおよびベルリン芸術大学院卒業。田村宏、ハンス・ライグラフの各氏に師事。1985年ブゾーニ国際ピアノコンクール第2位、1987年エリザベート王妃国際コンクール第2位受賞の壮挙を果たす。2002年10月カーネギーホール/ワイル・リサイタル・ホールにリサイタル・デビューを果たすなど、近年とくに国際的な活躍の場を広げている。出光音楽賞、モビル音楽賞奨励賞を受賞。

録音では現在ライブ・レーベルより、『ブラームス：ヘンデルの主題による変奏曲とフーガ』『ラフマニノフ・リサイタル ライヴ・イン・紀尾井ホール』『ストラヴィンスキーのペトルーシュカより3章』などがリリースされており、今後も意欲的な制作に取り組んでいく予定。

合志 知子 (ピアノ)

Tomoko Gohshi, Piano

福岡女学院高校音楽科を経て、武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。

1985年ジョイントリサイタル、1994年リサイタル開催。1995年ザルツブルク市の祝祭小劇場でのジャパンウィークコンサートに出演。

九州交響楽団(1988年、2003年)、大阪シンフォニカー(1991年)、福岡市民オーケストラ(1989年)、ザ・シンフォニエッタ(1995年)と、ベートーヴェンの第3番、第5番「皇帝」、ショパンの第1番、モーツァルトの第21番、グリーグのピアノ協奏曲を共演。

室内楽では1995年篠崎史紀氏とデュオ、1996年同氏を中心とするメンバーとドヴォルザークのピアノ五重奏曲を共演。1999年熊本市にて久保田緑氏、北本秀樹氏を中心とするメンバーと、又福岡市にて生沼晴嗣氏、嶺田健氏を中心とするメンバーとシューマンのピアノ五重奏曲を共演。

2001年松本市にてファブリツィオ・メローニ氏、フランチェスコ・ディ・ローザ氏(共にミラノ・スカラ座オーケストラ首席奏者)とベッリーニ、ドニゼッティの三重奏曲等を共演。

また、オーケストラのピアニストとして九州交響楽団に客員している。

松浦豊明、居石聡子、杉山千賀子、北川暁子、富山紀美子の各氏に師事。

現在、平成音楽大学講師、玉名演奏者協会会員、玉名市民合唱団伴奏者

◆The Sinfonietta 第20回記念演奏会に寄せて(山下一史談)◆

「宗教改革」について

「宗教改革」はあまり演奏される機会も多くはないし、メンデルスゾーンの代表作とは言えないかも知れない。でも僕には何か強く訴えかけてくるものがあり、とても深く共感できる音楽のひとつ。その共感が、僕にとって大切なオーケストラであるThe Sinfoniettaの演奏によってお客さんに伝わることを願っています。

「音楽に向き合うということ」

アマチュアは技術ではプロにかなわないけれど、プロより感動的な演奏をすることはできると思う。そのためには弾ける弾けないという事よりも、音楽への深い愛情と理解・共感が必要。どういう音楽を作りたいかという思いがまず最初にあり、それを実現させるために初めてテクニックが必要となってくるのだと思う。そういう音楽に対するアプローチの仕方を続けていけば、The Sinfoniettaもオーケストラとして更なるステップアップが望めるのでは。この演奏会がそのきっかけになればいいと思っています。